

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

京都府舞鶴市 舞鶴市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	4	-	訓	^
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
85,152	4,671	非該当	20:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

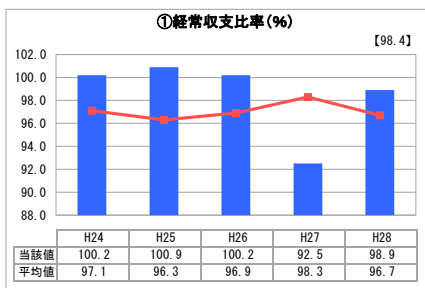
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	100	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	100
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	97	97

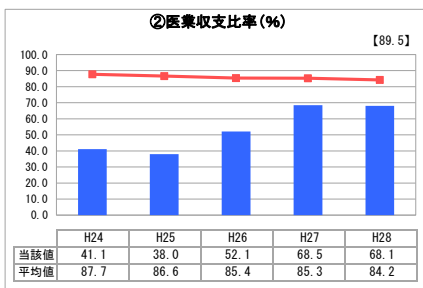
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

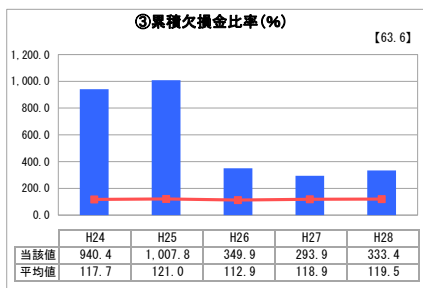
## 1. 経営の健全性・効率性



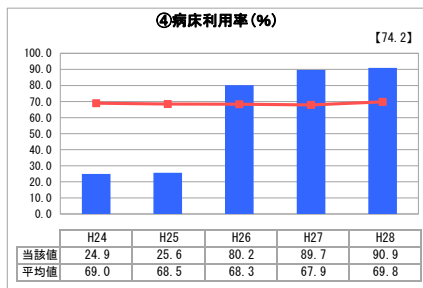
「経常損益」



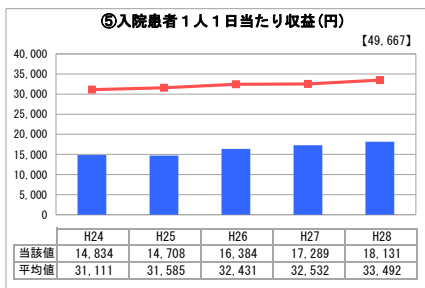
「医業損益」



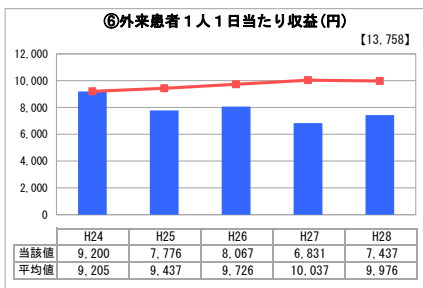
「累積欠損」



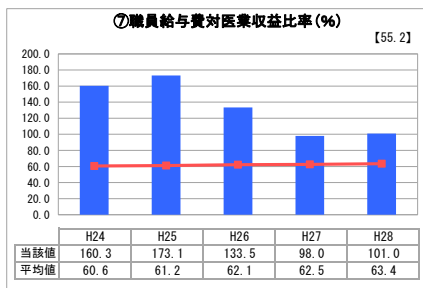
「施設の効率性」



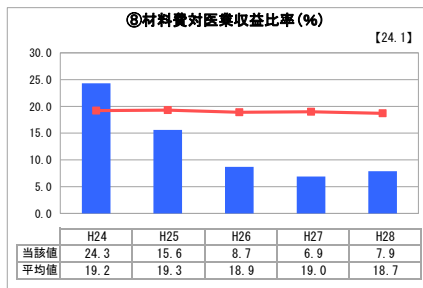
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

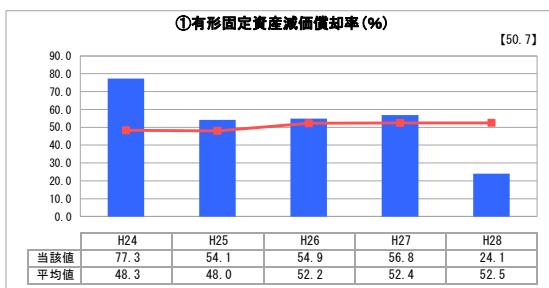


「費用の効率性①」

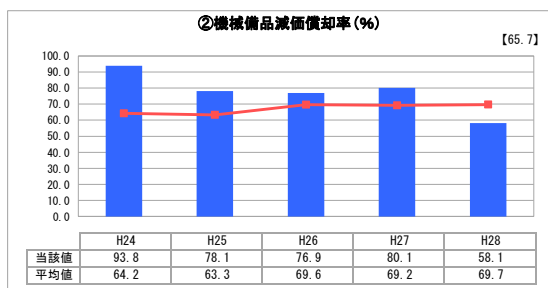


「費用の効率性②」

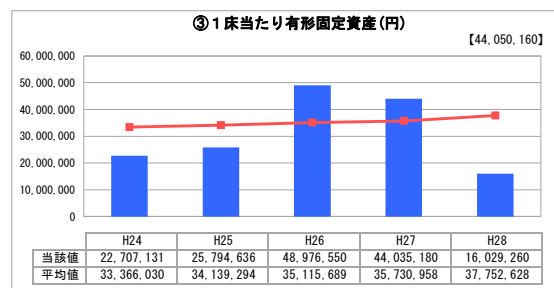
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

平成26年度から、療養病床に特化した医療療養型病床として、急性期医療を担う市内公的3病院との連携を緊密に図りながら、地域に不足する慢性期医療の確保に努めています。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

平成28年度は、④病床利用率と⑤入院患者1人1日当たり収益が増加していることから、②医業収支比率の向上が見込まれましたが、旧病院施設を処分したことにより医業費用及び特別損失が増加し、前年度よりも②医業収支比率は減少し、③累積欠損比率は上昇しました。  
④病床利用率は、平均値と比べて高い率を保持しており、⑤入院患者1人1日当たり収益は、慢性期医療であることから平均値に比べて低くなりますが、年々着実に上昇しています。

### 2. 老朽化の状況について

旧病院から新病院へ移行した際、病棟を新設、旧病院の病棟は平成28年度に処分したため、有形固定資産の償却率は非常に低くなっています。一方、機械備品はその多くを旧病院から引き継いだため、平均値よりやや低い程度の減価償却率となっています。老朽化した機械備品については、その必要性を再検討した上で、順次更新を行います。

### 全体総括

市立舞鶴市民病院は、慢性期医療に特化しているため、急性期医療を主とした平均値より、⑤、⑥1人1日当たりの収益額は低く、⑦職員給与費対医業収益率は高くなっています。これは慢性期医療が、急性期医療に比べて収益性が低いことによるものです。一方、病床利用率は平均値よりも高くなっており、これは地域における慢性期医療のニーズに対応した結果として、高い施設稼働率に繋がったことを示しています。  
今後は②医業収支比率の一層の向上と、④病床利用率の高率維持に努めます。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。